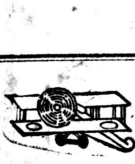


新報

Semanario de S. Paulo
Rua: Platan, 4-15, 4-72
Caixa Postal, 58 BAURU
Director e Redator: ROGERO KOWYAMA

元旦

一九三一年が来た。
不景気であった昨年度の延長で、
昨年の不景気は、要するに金
融界の窮乏であつて、人間生活
の本質的必需品不足の備へでは
なかつた。



都だより (行政の苦)

初陣の労働大臣

△オスワルド、アラウキョ、ジ
ユアレス、ダボラ、コエス、モ
ンテイロの諸氏が保護のため、
年輪の如く、或る期間を割し、
あらたててついでである。

△オスワルド、アラウキョ、ジ
ユアレス、ダボラ、コエス、モ
ンテイロの諸氏が保護のため、
年輪の如く、或る期間を割し、
あらたててついでである。

一九三一年が来た。
不景気であった昨年度の延長で、
昨年の不景気は、要するに金
融界の窮乏であつて、人間生活
の本質的必需品不足の備へでは
なかつた。

△オスワルド、アラウキョ、ジ
ユアレス、ダボラ、コエス、モ
ンテイロの諸氏が保護のため、
年輪の如く、或る期間を割し、
あらたててついでである。

△オスワルド、アラウキョ、ジ
ユアレス、ダボラ、コエス、モ
ンテイロの諸氏が保護のため、
年輪の如く、或る期間を割し、
あらたててついでである。

△オスワルド、アラウキョ、ジ
ユアレス、ダボラ、コエス、モ
ンテイロの諸氏が保護のため、
年輪の如く、或る期間を割し、
あらたててついでである。

雪の頭社題御
神寂しし諏訪のあけぼの金色の
光りに映ゆる御手洗の雪
柏手の音澄み渡り拜殿の
雪を一入神々しけれ

Sociedade Colonizadora do Brasil Ltd.
Rua Boa Vista. No. 11
Tel. 2-1342 Teleg. IURENGO
Caixa Postal, No. 2975
São Paulo
有限責任
ブラジル拓植組合
サンパウロ本部
バストス移住地
チエテ移住地

謹賀新年
昭和六年一月元旦
ア・マシヤード日本人會
ソロカバナ線 アルヴァレスマシヤード驛

革命假政府の

政情あん膽と?

前大統領アルフレド、ペナルド氏ミナスの閉居より出府すれば、革命假政府の首領部オズワルド、アラニヤ、タゴラ將軍及ゴネス、モンテイロの三氏がペナルド氏を圍んで去る二十七日コパカバナ別荘に秘密會合する

外國電報

鈴木富士彌氏重態

内閣書記官長鈴木富士彌氏は持病のセンタクで重態である

ジヨフレ將軍危篤

既に數月間病床に呻吟し居た歐洲大戦中有名な佛國大將ジヨフレ將軍は關節炎に苦しみ昨今危篤に瀕した



電滴

▲トウク一三一年が来てしまつた。人並に先づ其出度いと云つておく、唯かも其が出るから

▲一九三一年度... 年度のあの不景氣の奴め、先週りして居る様だ、皆が氣をつけ

謹賀新年

時計修繕所 井上彦一郎

カフエーランヂヤ驛

謹賀新年

仲買商 中野止

カフエーランヂヤ驛

謹賀新年

山本幸作商店

ペンナポリス驛

Pharmacia Magalhaes

賀正 マガリアエス藥局

カフエーランヂヤ驛

恭賀新年

洋服洗濯業 岡林福吉

カフエーランヂヤ驛

謹賀新年

日本品卸小賣 農産物仲買

瀨木商店

謹賀新年

本館 支店

バウル市 アザリアス、レイテ街一八

支店 聖市コンセリエイロ

フルタード街二二

カフエーランヂヤ驛

恭賀新年

森中村吉三

ヒリグイ驛

謹賀新年

尾崎孫三郎

カフエーランヂヤ驛

謹賀新年

平野植民地日本人會

昭和六年一月一日

平野青年同志團幹部

旭小學校及平野藝塾

父兄總代

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

謹賀新年

尾長旅館

館主 長尾與三

アラサツバ驛

バウル市

サンタカザ寄附金

及芳名(順序不同)

一、金貳拾五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

一、金五元 湯川 龍長

廣告

日本領事館

在バウル

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

昭和五年十二月一日

御一報願タシ

各々

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

友人御一同

昨年度本紙に現はれた 出来事

在伯邦人に
関係のある

正月の部
▲三七五萬圓在伯邦人への祖國
▲低利資金調達の第二回大會がプロ
▲ミツソン縣で開催された
▲雜誌「農業のフランドル」に社主
▲有馬鐵輔氏が舊主揮旗旗志氏へ
▲又譲渡した
▲北西線プロモーション縣ボラ植
▲民地で妻子三人惨殺事件があつ
▲「農業のフランドル」社が伯人資
▲本家より引出すと云つた二千万
▲ントス問題が伯人側のベタンと
▲知れ其奔走者の一人鈴木季造氏
▲男性的に辨明書を發表した
▲二月の部
▲二月六日平野植民地に植民祭
▲制定
▲二月一日正金調建植貨四
▲四一〇レウス
▲マロロ、ピアンナ伯國共和政
▲府副大統領ミナス州モンテ、ク
▲ラロ市にて狙撃受傷す
▲白鳥奨助氏海外興業會社伯國
▲支店長に就任
▲三月の部
▲北西線邦人植民地の中心地
▲ンス縣に邦人子弟教育のونس
▲學園開園さる
▲三月一日伯國大期大統領選日
▲伯國パラライ州に革命の火の
▲手上げる
▲北島拓務省書記官來色
▲本紙が獨乙版紙型に擴張さる
▲四月の部
▲四月二十六日日本人同仁會總
▲會あり
▲有吉大使歸朝する
▲天長節號發行
▲聖州政府加球調節費借款二千
▲萬ボンド英米に成立
▲熱帯病理學の權威松岡博士來
▲伯する
▲五月の部
▲アラシ見日
▲原口七郎書記生在ハラル帝國
▲領事館へ來任、古川書記生歸朝
▲山越拓務事務官來色
▲マリアノ縣に日本人青年會組
▲織され次で同士會も組織さる
▲オオ首府にツエベロン伯號送
▲なく飛翔し來る
▲六月の部
▲アラシ植民地地乾魃の爲加
▲球五十萬株立ち枯れ
▲アラシ拓殖組合現業員總協
▲議會聖市に開催さる
▲カトー東山加球精選工場を
▲ロマン縣に購入す

七月の部
▲バストス植民地に家出牛虻後
▲の青年の絶死體深森に發見さる
▲物部牧師逝く
▲パラライ州統領ジョアン、ペ
▲ソリア氏狙殺さる
▲國際聯盟日本勞動代表館本文
▲治氏來色
▲リオ、デ、ジャネイロ丸來航の
▲新移民トラホーム患者が上陸
▲拒絶され送還さる
▲八月の部
▲上塚周平氏アマゾン州植民開拓
▲の途次來色
▲上塚周平氏入院す
▲果敢渡伯移民數減する
▲鎌倉丸での新移民八十三名
▲トラホーム患者として上陸拒絶
▲さる
▲北西線ونس縣に農事講習會
▲終了す
▲本社發行のノロニエラ、ソ
▲カバナ、パウリスダ三線年鑑發
▲行す
▲中島總領事、濱口領事の打つ
▲た伯國狀況電報が悲觀電報とな
▲つて問題になる
▲モンテビデオオトラホーム患
▲者九十九名を出す
▲マリアノ日本人會組織さる
▲三七五萬圓低利資金調建植貨
▲ونس市に開く
▲九月の部
▲同歸國代表多難間、福島出
▲聖後在オオ帝國大使館へ出頭す
▲十二日芭市附近霜降る
▲マリアノ日本人會分裂する
▲十月の部
▲三日伯國革命火蓋切られリ
▲ランド、ストル州、ミナス
▲ジラニエ州、パラライ州の三州
▲中央共和政府ワシントン、ルキ
▲ズ統領に反旗を擧ぐ
▲三七五萬圓低利資金調建植貨不
▲能と大使館より發表
▲五日伯國全土に戒嚴令を布く
▲伯國革命經濟界動搖の爲め國
▲民休業日を布く三週間
▲二十四日革命成就共和現政府
▲成立す
▲内務眞法學士夜盜團に襲はれ
▲殺さる
▲十一月の部
▲呼寄移民にも渡航補助費を與
▲ふと海興發表する
▲漢那沖繩代表士來色
▲ونس父兄會リオン學園後援
▲會に反對黨現はれリオン日本人
▲會革運動起る
▲十二月の部
▲聖州革命初回政府總辭職す
▲伯國假政府外國移民制限令を
▲向ふ一ヶ月間執行す

謹賀新年

日一月一年六和昭

社會式株業興外海
店支國伯

代理部
フオード自動車
スタンダード石油

移 民 部

アニニユーマス農場

イグアベ植民地

謹賀

謹賀新年

日一月一年六和昭

珈琲 コミサリオ

カーザ東山

ミヅカミ、イ、コムバニア
サントス市シターチ、デ、トレド街二五番地

モンテデステ、デ、カムビーナス農場

カムビーナス 郵函 五九號

モンテデステ、デ、ビンダモニヤンガバ農場

中央線ビンダモニヤンガバ 郵函 一〇號

福井耕地 建本健介
アラサツバ驛町

謹賀



富士印醬油

醸造所

藤澤豊次郎

カフエーランチャ驛町

謹賀新年

カーザ東山
カフエーランチャ代理人

田中龍介
カフエーランチャ驛町

謹賀新年

旅館業 中田菊次
カフエーランチャ驛町

謹賀新年

寫眞師 山本浩直
ピラジキ驛町

謹賀新年

入惠齒科醫院
カフエーランチャ驛町

謹賀新年

洋服店 平田嘉一郎
カフエーランチャ驛町

謹賀新年

西本商店

店主 西本芳然

ペンナボリス驛町

謹賀新年

山村科醫院

院主 山村龜吉

ペンナボリス驛町

謹賀新年

佐藤喜商店

ペンナボリス驛町

恭賀新年

旅館 昭和

館主 平藤作

ペンナボリス驛町

藝文



隨筆 夕立

白雲生

夏が来た。暑い。男性的な夏が来た。朝、ふと目が覚める。と体中汗びしょだ。寝る時は暑いので毛布は下敷にして寝たのだが、何時の間にか毛布を被つて居た爲である。太陽は早や家の壁迄で照らして居る。空は何となく陰うつな表情をしてゐる。秋の朝の如き蒼天は何處にも見ない。空気が停滯して木葉一ツ動かない。

盛夏の眞晝の太陽に草木は皆死せる如く、人々は皆釜の中に喘いでゐる。餘りの暑さに頭もボーとしてゐる。

此の時 西北の方面にあつて黒雲が頭角を現し、見る見る空一面に擴がり忽ち太陽を隠してしまつた。風急に、塵埃を吹きとばし續いて大粒の雨が降下する。急風は舞は上つた埃はだん／＼と舞る。屋根瓦は震ひ電光は人の目を暗くする程猛烈に閃めき、雷鳴は大地を震す大音響を轟し、文字通り天地暗冥となる。

やがて西北の方から明るくなつて風雨は止む。大暴風の後の快き。眞晝の涼味は満ち溢れて、草木鳥獸皆蘇生し、盛夏の綠意々濃さ感がある。

一日中の酷暑の苦しみも打忘れて何とも云へない爽快を覺へる。夕立の有難さは此に在る。(一九三〇年十二月十四日)



迎歡稿投

●鎌倉丸船上の 南樹 芭蕉のなかに立ちて 芭蕉つむ鎌倉丸は白き船白き服着し船の人々の甲のバナナの房に身を寄せてしきく仰く船の帆の白くぬれつ甲の芭蕉の房を見つ、たゞすむ。甲板は芭蕉の房に埋もれて朝の露に降る雨を降し。船の帆降り降れて甲の芭蕉の房の緑を映し。

●好例 モンソン 宮口生 わたしは後世に出産なくとも地球の幸福を考へて見る。地球は毎日廻轉しながらまた毎年に廻轉するさうなおれがいつか後世の外に何が出来やうかおれもこのお世の外の外に何が出来やうかおれもこのお世の外の外に何が出来やうか

●反對 我々の愛する者が不幸に陥つたら此上もなく悲しい氣がするだらうだが我々の憎んで居る者が不幸ならはどうか我々の憎んで居る者が不幸ならはどうか我々の憎んで居る者が不幸ならはどうか

●石井氏社集 第十二回 ▲短 註一日盛りひる 南 仙子 雲の裾を捲いて射し日影を照らしてはるや風の皮手洗はばらばらと下り降り日影は皮剥けたる木の幹

●川柳 救済資金に題し 我が足はオカシヤ何時もふけぬなり 救済金出ぬと自分が力味だし アカブンドを馬鹿運動にしてしまひ

●簡易食堂 東郷 米吉 プロミツソン町

●洋服店 大内量一 グワキサーラ驛町

賀 人事相談所 土地紹介。農産物取次業 鈴 木 季 造 正 プロミツソン町 郵函九五

賀 山下藤次鍛冶工場 正 プロミツソン町

謹賀新年 松藤初市商店 正 プロミツソン町

賀 正 理髮師 組田 白市 正 プロミツソン町

賀 正 理髮師 浦田 源藏 正 プロミツソン町

賀 正 向井齒科醫院 正 プロミツソン町

賀 正 松岡齒科醫院 正 プロミツソン町

恭賀新年 珈琲仲買商 丸山 丈夫 正 グワキサーラ驛町

恭賀新年 カーザ東山 ノロエステ線總代理人 間崎 三三一 正 プロミツソン町

恭賀新年 飯田彦光商店 正 プロミツソン町

謹賀新年 青木多喜藏商店 正 プロミツソン町

謹賀新年 マキナ・シヤポネザ 正 プロミツソン町

謹賀新年 平田千嘉藏商店 正 プロミツソン町

恭賀新年 穀物仲買 藤井正人商店 ウイツベ自動車會社代理店 正 プロミツソン町

謹賀新年 土地紹介所 相 馬 速 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 本田 授 商店 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 珈琲仲買商 高橋 善七 一月元旦 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 パール 高橋 利善 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 パール 村田 新 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 竹藤庄吉鍛冶工場 正 グワキサーラ驛町

謹賀新年 カーザ東山代理人 佐藤 由 正 グワキサーラ驛町

ス ポー ツ 北西線野球聯盟の組織を祝して

寸隙だも許さぬ正義と力の優劣こそがスポーツに於てのみ見出されるのである...

最近のノロニスタ線リーグは邦人野球ファンに熱烈なる努力により北西線野球聯盟なる組織の出来事は慶賀すべく...

このスポーツ熱の燃頭して来た一九三〇年の聲を聞きながら、今なほスポーツに對し理解なく遊戯視して居る青年或は父兄の多し事は實に残念に思はざるを得ない。

北西線聯盟野球を目前に リンスタームの堅陣容をのぞく アル・アイ生

全聖州野球ファンに望んで止まらなかつた北西線野球聯盟も、機熟し、新年早々發會式を兼ねて第一回聯盟野球大會をリンスターム・カンポに於て盛大に舉行する事になつた。

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

椰子の葉風 風葉の子 椰 伯民移國 史面 樹南

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

「椰子の葉風」はブラジル時報に連載した「放浪者の半生」の續きである。私は始めこの記事は少なうともアマゾンより歸る所迄書いて見たい積りで...

謹賀新年 パウル領事館 濱口光雄 中野了義 原口七郎

謹賀新年 ドットル 齊藤等 ドットラ 和家子

謹賀新年 聖州新報社 編輯部 營業部 印刷部 昭和六年 一月一日

謹賀新年 法人サントス 日本人會

恭賀新年 日伯シネマ社 代表者 齊藤政一

恭賀新年 家具商 古賀工場 古賀政治

恭賀新年 溝神金助

謹賀新年 喜名朝榮

謹賀新年 澤尾旅館

謹賀新年 旅館 沖山心平

謹賀新年 カイザ東山

謹賀新年 管野榮利

謝南米開拓之勞

在早稻田大學 佐々木與三郎

我が敬慕する在伯奮闘の諸賢から、...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

其の思想上の影響、國民精神に...

サボン玉の色

お天気の好い日に、石鹼水を...

この反射作用は光線が物體に...

石鹼の極薄い處には黒い斑點...

石鹼玉がどの位薄いか科學者...

石鹼玉に現れるやうな美しい...

石鹼玉に現れるやうな美しい...

石鹼玉に現れるやうな美しい...

石鹼玉に現れるやうな美しい...

鬼の耳

バウル市某仲買人の家でシヤカ...

「我々は喰ふ爲めの動物か、それ...

「...」とこれを隣家の一室で登...

「手前等は小金貯めて所謂儲を...

「...」とこれを隣家の一室で登...

「手前等は小金貯めて所謂儲を...

「...」とこれを隣家の一室で登...

「手前等は小金貯めて所謂儲を...

謹賀新年

新春を賀し奉ります...

今年も御買物は弊店へ...

カーザソールナツセンター...

高橋忠一...

リンス市...

高橋忠一...

リンス市...

高橋忠一...

謹賀新年

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

謹賀新年...

平野植民地の教育機關

去る十二月十五日平野植民地
平野義塾に於て近頃稀に見る會
合が催された。
一休夜間中學平野義塾は、同
地祖小學校校長原篤氏就任以來初
められた私塾である。本塾の創
立は昭和三年十二月十五日の夜
より始業し今日に至るまで滿二
ヶ年、此の間一時流行的に塾生
の増員を見た事もあつたが、異
劍味のない烏合の青年は、漸次
影をひそめて今日になつてゐる
のであるが、いよゝ現在まで
涙ぐましい勉學を續けて来た
ゆゑ生の中には随分感心な者も
多々ある(教授時間は一週五夜
八時より零時まで)滿二ヶ年間
無欠席の者に今村友房、一日乃
至五日欠席者に秋永三郎、川崎
一男、森儀平次、櫻井光登など
の青年がある、教師と生徒の間
に流れた、精神的結合が熱然
たる一團をなし楠風淋雨、鶯れ
て後止むじゆく團はいよゝ
固くなつてゐる。
當日の會合は、平野義塾の創
立記念と恩師慰勞會であつた。
午後六時じゆく生一同は手製
山海の珍珠を準備しじゆく長夫
妻を正座に招じ、先づ修養部長
秋山久次氏立つて本夜の會合の
意義を説明し、併せて恩師の健
康を祝し、次で勸勉第一の評あ
る修養委員今村友房氏の老巧
なる談話あり運動部部長兼弁
論部委員たる原元幸氏の談話を
聴き、在伯青年の肺肝を扶
ぐる涙ぐましい眞剣の叫びであ
つた、一同起立して恩師の健康
を祈つて宴にうつた、宴中夫
々恩師夫妻の好物を饗したり、
餘興に手をかへ品をかへて師の
歡心に致めたり、一意専心師に
對する純情を傾注した一同の舉
止は宛然孝子が老親に奉仕する
様であつた、我利、利己の今の
社會に見る能はざる涙ぐましい
程の會合であつた。

謹賀新年

景山商店
ベラクルーズ驛町
支店
一 同
スンジヨ町

一粒のカシの實

一粒のカシの實
ガルサ 寸南生
「一粒の樞の實の中には將來の
大森林がある……」とある西哲
に云つてゐる。
この言葉は故國を離れて遠く
異郷にその安住の地を求めて生
活してゐる吾等移民にとつて
殊に強い響きを持つてゐる。風
俗やあらゆる傳統の異つてゐる
土地に、その日々の生活をして
ゐる僅か一組の夫婦も、やが
ては一大民族の祖となることだ
らう。
新機なことを考へて來ると、
漫然と生活してゐる吾等の胸裡
には、自己の將來といふこと以
上、吾等の子孫所關第二世等の
成長後の如何が當面の大問題と
して、然も未解の謎、其の
時々の風の吹き廻して何とかな
……位の考へて其のまゝ、横
たはつてゐるかの感がある。
異國に生育する子孫、それに
對する親の見解、異國に成長し
た第二世等の希望、それは其の
時々の環境によつて何れとも支
配するべき運命のもとにおかれ
てあるらしいが、これに對して
は標準的定見とも云ふべきもの
は無いだらうか。
一休吾等の中で、伯國式の生

上田商店

謹賀新年
ガルサ驛町

安元商店

謹賀新年
デュアルチーナ驛町

線長延タスリウバ

謹賀新年
原商店
ベラクルーズ驛町

謹賀新年
小川穀物商
小川健六
マリリヤ驛町

謹賀新年
山下商店
山下唯一
マリリヤ驛町

謹賀新年
中原商店
ベラクルーズ驛

謹賀新年
岩本三六
マリリヤ驛町

謹賀新年
佐伯商店
佐伯仁助
マリリヤ驛町

謹賀新年
村上商店
村上義雄
マリリヤ驛前

謹賀新年
岡田商店
岡田徳太郎
太田林一
マリリヤ驛町

謹賀新年
三ッ輪印
酒井兄弟工場
ガルサ驛

謹賀新年
梅田商店
梅田金次郎
マリリヤ町

謹賀新年
家入商店
家入満
家入優
マリリヤ驛町

忌中に就き新年の禮を
差控えます
齊藤好位商店
ベラクルーズ驛町



新風景は物語る

重富氏の蓮池を見る記

一 記者

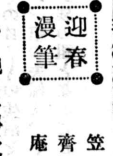
「珈琲々々」と珈琲一方に偏重した時代は既に過去の夢と化し...

この新風景はわれらに何事かを物語つて居るのではないかと...

重富氏は伯國に於いて蓮根栽培の...

各方面から觀て多事多端だつた一九三〇年を去り...

蓮根が外人の嗜好に投ずるや否やは今日のところ未知だが...



漫筆

迎春 齊 笠

新年お芽出度存じます

相原理髮店

御洗髮並にマツサージは御調髪毎にいたします

謹賀新年

矢部洋服店

謹賀新年

本田寫真館

謹賀新年

本田安記

謹賀新年

佐藤家具店

謹賀新年

佐藤光藏

謹賀新年

青木商店

謹賀新年

廣木合資會社

精米所

珈琲精撰所

賀正

中須彌吉

賀正

加藤憲

賀正

加藤憲

賀正

加藤憲

精米所

農田源行

米

福島力

リネンセ



ロウパンサ 記國人

奇人變物、十人十色それ相嘗... 羅盤に踊る大根役者や陣笠の陰...

●鈴木貞次郎君... 蘭と歌の三昧境にある南樹に...

●牧野朝君... 先づ人相が君の全生活を明示...

●氏原彦馬君... 高知縣の變り種で、ナンバウ...

●山田隆次君... ナンバウ近郊からコング街...

●若月操君... 百姓ドリーム、の若月君一時...

●鮫島直哉君... 鹿兒島縣には二つのつづき...

てを失ひあたら自分の貴い体験... 自己中毒をして居る...

●加藤順之助君... 今頃は納まる所に納つて居る...

●牧野朝君... 先づ人相が君の全生活を明示...

●氏原彦馬君... 高知縣の變り種で、ナンバウ...

●山田隆次君... ナンバウ近郊からコング街...

●若月操君... 百姓ドリーム、の若月君一時...

●鮫島直哉君... 鹿兒島縣には二つのつづき...

●鮫島直哉君... 鹿兒島縣には二つのつづき...

賀 正 御料理つるのや... カフェエラランチヤ驛町

謹賀新年 一月一日 竹内商店

謹賀新年 一月一日 副島商店

賀 正 カザベルメイヤ 澁谷商會

謹賀新年 大河内薬化学 研究所

謹賀新年 一月一日 副島商店

開店 御披露 武田商店

謹賀新年 各位益々御多祥御万福の段奉慶賀候

謹賀新年 一月一日 副島商店

在伯邦人今年度のうらなひ

當るも八卦、當らぬも八卦と云ふ振れ出しでは面白くない。これは乾度當ると云ふ龜甲ニテ河下流イタプーラの老漁夫が釣上げた大龜が眞に奇態の老龜で、頭も二つ、尻尾も二つあつて、其手足の爪には青舌が房々として居り、甲羅一面にも金色の毛が捲けて居たのであつた。

先祖代々龜甲占占に於ては獨特の靈敏的判斷をやる拙老が、其漁夫に三拜九拜して其龜を貰ひ上げ、インパツバの枯葉で生龜をくすべ、甲羅焼に三日三夜焼し、在伯邦人本年度の出来事を其甲羅焼の裂象により判斷透視した処によると左の如き事件發生するとつた。

當るも八卦、當らぬも八卦などと、失敗な事を云はすと、在伯邦人諸君に静かに反省し給へ。

一月、此月は殆んど雨降つた。諸河川大氾濫し、農作物に大損害を與ふるも結局農産物の騰貴により農界の經濟状態は沈滞を破つて五月頃より活氣づく。

二月、死人の多い月である。邦人中の名物名士が二人白玉樓中の人となる。

三月、邦人新聞界に一波乱起る。

四月、田舎邦人殖民地に流行病猖獗す。

五月、ブラジル拓殖組合員の大變動がある。

六月、總領事歸朝する。

七月、歐洲戰亂の微あり。

八月、日本移民ドシクと波伯し來る。在パウルの領事歸朝する。

九月、珈琲高値が出て珈琲界に活氣が漲る。

十月、駐伯日本大使來任する。

十一月、在伯邦人金融問題で又騒ぐも具體化せず。

十二月、新總領事來任す。

ス、カードが交換されます。この習慣は西曆一八四六年（ヘンリ）から始まつてゐます。

この日はニユーヨーク、又ロンドン等の大都市では盛大な社會事業が行はれ佛蘭西の手によつて「今日は神様の御誕生日ですからお互ひに喜びませう」と云つて贈るのですが、「受くるより與へる者は幸なり」のキリストの言葉に從つたものであります。

日本では明治五年頃までは、神戸や横浜の外人町でだけ行はれてゐました。ナタールの事をその頃「異人の正月」と云つてゐました。そうしてナタールの贈物は主として吃食の群が貰つてゐたものです。

大正天皇崩御遊ばされてからは、廿五日は一般に簡單な禮拜に止められ、ナタールのにぎやかさはその後に行はれる様になつてゐました。(終)

Natal の起源と風習

イエス・キリストの誕生の御きを澤山背つて、男を祝ひをナタール(クリスマス)と云ひます。丁度「しやか」の誕生の御祝ひを花まつりといふので、これを入れて置き、それを子供たの佛敎信者で祭ります様に、キリスト敎國に於ては、國を擧ぐる習慣がたまたま「クリスマス」の夕に眞似られました。それで、この日を祝ひたのしみまつてゐる。

今から千九百卅一年昔主イエスが食し父ヨセフ母マリヤとの間にユダヤのベツレヘムの或る馬小屋の中で孤々の聲をあけました。その後四世紀たつてからその頃、ヨーロッパの婦女の間で「母の夜」と叫ばれた異教の祭りがあつたのを、キリスト敎化したが、このナタールの始は世界中における年中行事と云ふべきであらう。それ以來ナタールはキリスト敎の主要な祭りと云ふべきであらう。

その頃小アジアから出た初代のキリスト敎の牧師に、セント・ニコラスと云ふ人があつた。その人はローマ敎及びギリシヤ敎の諸敎會に於ける聖者として有名な人で、殊に子供に對しては特別親切な人であつた。この人のお祭りを「セント・ニコラスの夕」と云つて、久しい以前から例年十二月六日から廿九日迄に、ヨーロッパ諸國の教會や英國の公立小學校で行はれてゐました。そしてこのお祭りは、セント・ニコラスに扮した牧師が、雪の朝子供達の好

かくしてクリスマスは英國から米國、フランス、ドイツ、ロシア等と順次諸國へ知れわたつて來たが、このナタールの始は世界中における年中行事と云ふべきであらう。それ以來ナタールはキリスト敎の主要な祭りと云ふべきであらう。

その頃小アジアから出た初代のキリスト敎の牧師に、セント・ニコラスと云ふ人があつた。その人はローマ敎及びギリシヤ敎の諸敎會に於ける聖者として有名な人で、殊に子供に對しては特別親切な人であつた。この人のお祭りを「セント・ニコラスの夕」と云つて、久しい以前から例年十二月六日から廿九日迄に、ヨーロッパ諸國の教會や英國の公立小學校で行はれてゐました。そしてこのお祭りは、セント・ニコラスに扮した牧師が、雪の朝子供達の好

謹賀新年

パール 浦六平
ビルグキ驛町

恭賀新年
伊藤 達馬
ビルグキ驛町

謹賀新年
マカロン製造所
伊藤 嘉平 治
アラサツバ驛町

謹賀新年
山口 兩助 商店
ビルグキ驛町

謹賀新年
ホテル 山本 政義
ビルグキ驛町

恭賀新年
パール 江藤 子之八
ビルグキ驛町

謹賀新年
中村 旅館
ビルグキ驛町

恭賀新年
吉井 利雄
ビルグキ驛町

恭賀新年
吉田 兄弟 商店
ビルグキ驛町

謹賀新年
長谷川 榮治
ビルグキ驛町

恭賀新年
森田 松次
ビルグキ驛町

恭賀新年
ホテル 田中 末彦
ビルグキ驛町

賀正
大庵醫院
院主ドクトール 大庵 喜八
アラサツバ驛町

謹賀新年
重松市作商店
アラサツバ驛町

謹賀新年
旅館 今城 政雄
アラサツバ驛町

謹賀新年
出利 葉羊三 商店
アラサツバ驛町

謹賀新年
熊本 旅館
田之上 熊吉
アラサツバ驛町

謹賀新年
川瀬 勘助 商店
アラサツバ驛町

謹賀新年
珈琲 大原 榮藏 商店
アラサツバ驛町

賀正
珈琲 物仲買 商
藤田 實商店
アラサツバ驛町

謹賀新年
家具商 武部 寛一
アラサツバ驛町

謹賀新年
忌中に付新年の禮を 差控えます
珈琲及 精工所
安瀨 盛治 商店
アラサツバ驛町

新報



聖州

同不序順

換交刺名

中野巖	明穂梅吉	白鳥曉助	北村政吉	北村豊吉	大村信夫	福川薩然	南條榮	成瀬廉	原口七郎	中野了義	江越信胤	川西豊蔵	濱口光雄	中島清一郎																
聖市	聖市	聖市	聖市	聖市	聖市	聖市	サン투스市	サンロス市	パウロ市	パウロ市	聖市	聖市	パウロ市	聖市																
長田幸助	比嘉松義	宮平市助	野村直記	平岡信次郎	後藤七郎	壺内一	青木稔	鮫島直哉	山田隆次	上塚周平	村井稔弘	米倉鳳介	東後一美	坂本靖																
聖市	聖市	聖市	アフラッパ市	カフエラ市	サンペドロ市	グワイチヤ市	サンロス市	聖市	聖市	聖市	聖市	聖市	聖市	サンペドロ市																
全推野源之助	全十川貞子	全本田栄太	全加来光晋	全山口牛松	全下田真藏	全太田久次郎	全難波金次郎	全竹澤利三郎	全峯嘉四郎	全井本模輔	全淺田乙	全土屋貞雄	全横井清作	全城間嘉助	全師富榮	全水城磯次	全土谷庄之助													
全塩見貞太郎	全荒毛せよ子	全丸林久太郎	全山下寛人	全樋口謙三	全松本高信	全百田若松	全黒岩秀吉	全須山勘一	全阿久津龍一	全柳澤文富雄	全岡田英定	全目黒よと静	全園田三吉	全花野雲平	全佐藤静	全河村保喜	全八尋ま鶴子	全山口彌太郎	全山下秋て平	全安藤逸平	全野間常雄	全林保	全田中とも吉	全南部愛蔵	全山下定一	全佐藤さ一郎	全多羅間鐵輔	全間島千波	全宮尾厚	
全平田源之助	全重富ち猪六	全大石知覚	全平田精吾	全坂本たつ造	全額雪はつ	全田浦松三郎	全一ノ瀬勸助	全佐々木郎吉	全藤澤貞子	全中島一龍男	全中川美彌喜	全原そのの	全畑野宗太郎	全渡嘉敷唯正	全手島和三郎	全狩野次太郎	全横田周子	全高田市次郎	全高田市次郎	全高田市次郎	全河原政右衛門	全齊藤基七	全酒清と二	全上松たね	全平田の満	全矢野熊太	全岡島仁郎	全畑中仙次郎	全丸山丈夫	全山田登子
全杉野つとや郎	全山本森喜代	全木町たけ一	全原惣三郎	全母倉曾次郎	全美甘元次郎	全下田真藏	全藤永ふて藏	全山地良藏	全今西啓太郎	全藤原嘉太次	全松岡徳太郎	全植田勘三郎	全今村き吉	全波止豊吉	全藤江藤太郎	全秋永熊吉	全橋本亦太郎	全渡邊義雄	全齊藤和子	全芳我よし	全柴尾新太郎	全人形源太郎	全敷政美	全加藤さる	全保科松五郎	全藤業彦	全緒方喜久馬	全中熊光喜	全藤田おとし	
全山下永一	全村崎じ重	全齋藤志保	全藤崎正常	全野中み恵	全佐々木高信	全松谷春枝	全中尾忠太郎	全加藤せん	全木村み吉	全宮崎八子	全岡崎三子	全橋口敏信	全服部新治	全河野とち	全木村要し	全和田一太郎	全東條善藏	全今村権造	全山根清子	全木村末松	全佐々木光太郎	全岡成小市	全山本さゆみ	全坂本留太郎	全錦織傳吉	全重本松次郎	全瀧本時之進	全建本健介	全橋浦富江雄	
全松本重作	全池戸信子	全佐々木末吉	全安田安兵衛	全佐藤かつ子	全松澤たけ二	全勝田正通	全北原地蔵	全三阪ちか	全福島拾吉	全森部つや	全引地たけ	全日高卯平	全山田喜一	全山本と一	全花石美勝	全佐藤次郎	全石井重子	全内山吉蔵	全青柳ふみ吉	全嘉悦千代	全竹原さとし	全林田まさ	全品川さよ	全高岡静仁	全小出長助	全松原しげ	全永野勘太郎	全水田真澄	全成松ま蔵	
全推野正	全推野豊	全佐藤静	全安永良耕	全古澤猛	全野村しげ	全日置春子	全成宮徳松	全中森憲太郎	全半田己子	全松原み子	全堀吾子	全下江京太郎	全松原清	全中野い	全岡崎文子	全中村比呂	全松下正彦	全遠藤直治	全野藤元	全伊藤庄吉	全丸野夏子	全鈴木貞次郎	全原綾子	全古川鹿次郎	全兒玉清源	全丸岡しの	全唐澤千代	全米澤久雄		

夜半の夢

安永半狂

新年お目出度う、お目出度う... 分て土百姓の愚生所成でも書い... 上致氣を取取る事にした。

郷里送金

一、御送金の仕方は... 二、日本内地郵便局... 三、金子はコンパル郵便局... 四、何れにしても送金申請書は必ず忘れず

横濱正金銀行

THE YOKOHAMA SPECIE BANK LTD. RUA DA CANDELARIA, 23 CAIXA, 380 RIO DE JANEIRO

東京製菓 横濱堂 BARMIGADO Caixa 401 Biriguy

Hotel Japão Mario. H. Arita Rua Antonio Prado, 52 Phone 81 Est. Araraquara

北最良米 式新療 齒科醫 山中信一

米製 母國をかほり 醬油 安價提供

大坂商船會社 日本へ一番早く着く 優秀な新造客船

CASA TOKIO 雜貨 小間物 農産物 其他

Y. Shimizu Cirurgião Dentista Promissão 齒科醫

Hotel Shirota Pennapolis Caixa 261 物間小貨物

日本製麵所 美味しくて安くなる 徳用麵類は...

麵製 安價にして美味の マカロンを

廣告 本籍 茨城縣行方郡延方村乙九三五番地

海外興業株式會社伯國支店 新案大西式 製造機

第一望有 第一號機營業用の機能

家庭用機の機能

大西鐵工所 發賣製造

代理店募集

昭和六年度徵集延期... 昭和六年一月三十一日迄に在帝國外徵集延期又ハ在留申告書ヲ差出スル

日本を「好模範にした様な」伯國の制限移民令

去る廿一日朝、リオデジャネイロから一...

大使館から「二寸来い」をやらる

在バウル領事館の濱口領事...

新殖民地アマゾンより(一)

左の如くアマゾン州アマノ...

商店若夫人 寒心さす

去る廿五日の夜、バウルの...

大西鐵工場 主の案出

新ソルベツテ製造機...

各地団体だより

リンス日本人會第三次總會...

詩人自殺す

去る二十五日夜、リオデ...

ガアラバスの 發展

ブラジル新地圖...

アリアンサ植民地 共立會委員 決定

リンス日本人會第三次總會...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

演藝會

ノロ線のアタウワ、...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

バウル市邦人の 忘年会

去る廿七日夜、近郊の大...

